

お盆施餓鬼法要ご案内

お釈迦様の十第弟子の一人に目連尊者と云う人がいました。彼の母親は餓鬼道におちて大変苦しんでいました。

目連尊者は、お釈迦様に教えられ、餓鬼道におちた母の苦しみを救う為に、雨安居の終わる七月十五日に多くの僧侶や人々に衣食を供養し、餓鬼道の苦しみから救ったという話があります。これが「お盆施餓鬼会」の起源になっています。こうした風習は古来より日本にも伝わり、お盆には（施餓鬼）施しをして先祖の供養をするようになりました。

お盆にはご先祖が帰ってこられます。仏壇・お墓・自らの心を磨き整えて心からご先祖を、お迎えし供養を致しましょう。

当山に於きましては左記のように「お盆施餓鬼法要」を執り行います。家族そろってお参り下さいますようご案内申し上げます。

—記—

法 要
法 話
お とき

八月十六日午前十一時

妙 国 寺



境内に咲く百日紅